

### 第13回池田町・地方創生戦略町民会議 議事概要

- 開催日時 令和3年9月21日(火) 14:00~17:00
- 場 所 能楽の里文化交流会館2階 大会議室
- 出席者 委員14名 行政10名 事務局5名
- 傍聴者 1名(報道関係)

#### □ 開会

#### □ 委員長挨拶

#### □ 協議事項

- 「池田町・地方創生総合戦略町民会議検討結果報告書」(案)について  
担当者が資料に沿って説明
- 「第2期池田町創生総合戦略」(案)について  
総務財政課課長が資料に沿って説明

#### □ 意見交換・総評

委員：社会全体が周りと共存しない様子なので、子どもや孫の未来は心配になる。「地球は親から与えられたものではない。祖先からの授かりものではない。子どもたちから借りているのだ。」というアメリカの先住民の言葉を聞き、未来の子どもたちが安心して池田で過ごしていける場所にしないといけない。自分は農商工連携をして池田産の作物で商品を作り、池田の食文化や素晴らしい環境などの魅力を町外に伝えていく事が自分の使命・役割だろう。池田はこんなに素晴らしいから誇りを持って町内の方々にも伝えていきたい。

委員：話し合いは非常に大事だ。特にコロナ禍において、人の顔を見てする話がどんなに大切かがよく分かった。「不便なまち池田町」とよく言われ、聞いてきた言葉だったが、池田に全く負のイメージを持っていない新卒の来春の採用が決まった。周りで「池田はアクセスも良く、非常に良い所である。やはり好きな人は選ぶ。」と言ってくれる方もいるので、不便は恐らく買い物などの意味で、生活や仕事の面では非常に良い所ではないか。池田はまだまだこれから未来がある。行政ばかりが負担せず、土地の分譲があれば池田を好きな人が来るのではないか。

委員：子どもは、保育所の時から英語に親しみ、小中学校では様々な分野での交流があり、良い経験になる。様々な分野の交流があれば、子どもにとっては、好きや苦手が分かり、視野が広がるのではないか。コロナもあり、難しいかもしれないが、機会を与えてほしい。子どもはコミュニティ力が小さい頃から身につけている。

行政：声を聞く事が一番大切と感じ、家族、近所、地域を考え、多岐にご活躍の様々な方の話を踏まえ、今後に活かしたい。自分は生まれも育ちも仕事も住まいも池田で、子育てと仕事が同時の時はもう必死で池田を感じられなかった。子が親元から離れ、自分の生活と仕事を落ち着いてできるようになり、池田町の事を考えられるようになった。池田は事件事故や災害も少なく、じゃが芋や玉葱が一年中あり、人参や胡瓜は野菜の匂いがする、自分は幸せな状況にずっといたと改めて感じた。今までの仕事や子育ての経験と知識を活かし貢献していきたい。

委員：私も池田に対して負のイメージや抵抗が全くなく、本当に良い所だ。どこかに暮らす事は、仕事や仲間など様々な事が重なり存在すると改めて感じた。今まではただ住んでいる意識だったが、自分も役割を担っていきたい。園芸は高齢化で生産者は減り、その分他の方が負担している。誰か一人の活動量を増やすのではなく、全員が少しずつの百匠一品の考えが大事だ。何とかしてと役場をお願いする気持ちもあったが、まず自分に何ができるか、アイデアをどんどん出し、様々な人と共有して、園芸でも暮らしでも良い事をしていきたい。

委員：地域で女性は在宅傾向なので、女性も防災に関わるべきだ。日赤奉仕団は年に一回は各集落参加の防災研修等を開催し、緊急時には一定の支援体制があるので、自治組織に奉仕団を含め防災活動を行いたい。家に居がちな高齢者の話す機会として簡単な手芸教室や健康セミナー等を行っている。話す事手先を使う事で認知症予防になり、作品の出展・販売で生き甲斐にもなる。コーラスグループが取り組む「キャンドルナイト」の歌詞に「ネオン一つないこのまちに明りを灯すと誓った」とあり、エコキャンドルを復活させ、明るい話題としたい。池田が好きで、池田を皆で元気に活性化し、魅力ある人に人が来るので、そこをアピールしたい。

委員：地域の人等に未熟な若者達が始めた事や子育てや介護等日々支えて貰い、皆の懐の深さや心の優しさを感じた。支えて貰った方々の暮らしの知恵や技術の素晴らしさを少しでも継承したい。食文化は多少できたと思うが、文化は大きいので少しずつ取組みたい。子どもが農学部の卒論のテーマを4ヶ月間池田で考え、田植えや草刈り等一緒にし、様々な人の話を聞いた。地味な事をしている池田のおんちゃんは全然褒めないが一緒に仕事するとカッコよい、移住者の方との話は希望

が湧くという良い気付きがあった。土の人と風の人が交わるとエネルギーが生まれるので、池田在勤や移住者の方々と交わるのが大事だ。朝の散歩中に池田の子どもたちは大きな声で挨拶していたが、最近は挨拶してくれなくなった。コロナのせいかわからないが、小さい頃から地域の人から守られて育つ「池田っ子」という当たり前の気持ちが成長すると、愛着心や池田大好きな心に繋がった。

委員：池田は人が自然に包まれて生まれ、土に帰るのが自然だ。今、新生児から高齢者まで家で一緒に暮らし、生まれた命と閉じゆく命を毎日感じる。以前、町外で十数年過ごしたが、池田に戻り、再び朝や秋や土や雨の匂いを感じるようになった。家族が池田に戻って子育てしたい、通勤も遠くなく、道が混まないと話した。便利さを求めると人は欲望が限りないが、日々を感じる暮らしができれば幸せだ。一度しかないこの瞬間を楽しみ、子どもにもご近所の方等とも世間話をしながら、池田らしい暮らしぶりを続けられるよう、一緒にできる事を模索したい。

委員：去年から今年にかけて近くの間伐して貰った杉の木を斧で割って薪作りしたが、手にダメージが残り、昔の人は凄かったと思う日々が続いた。畑も趣味程度で、去年は玉蜀黍を植えたが、うまくいかず、育て方を動画で学んで試したところ、今年は何とか採れて食べられるようになった。虫が入ったのだが、それ程上手くできたかなと思いながら、ぼちぼち失敗しながら勉強の日々だ。いけだ暮LASSELと地域の連携が深まると良い。報告書に多くある農業も、頭が痛いな、いい事書いているなど思いながら、日々頑張っていきたい。

委員：青年団はエコキャンドルに参加していたが、昨年エコキャンドルの代わりとしてスカイランタンをTPAで行った。コロナ禍であり、あまりPRもせずに行ったが、町内外から、又、宿泊者も参加し、あまり空を見上げる事が最近少なかったから良かったという声があった。スカイランタン事業は、県の推薦で日本青年団協議会の地域活動の部の準実践大賞に選ばれた。ぜひまたやって欲しい、新しい事業をどんどん進めて欲しいとの担当者と話があったので、今後もエコキャンドルと同時並行など、様々な団体の力添えを頂きながら行っていきたい。

行政：集落の中年会、区の役員の集まり、お祭り等、様々な活動が比較的維持されている集落なので、集落での仲間づくりが活性化に繋がるようにしたい。役場職員でもあり、役場の様々な取組みを集落の方に伝える事も大事な役割と思うし、集落の方が困っていたら、また、取組みを聞かれたら、分かりやすく答えたり、役場に持ち帰り伝えたりして貢献できる。最近耕作放棄をしてしまった畑が1つあるが、少なくとも家の周りの草刈りや田畑を自分でできる限り続ける。皆が自分で

やれる所はやるという意識を持っているから池田の景観にも繋がっている。

行政：子どもに杯とり等の行事や旧清水谷トンネル等の歴史、マイバスや通学支援があり、池田は良い所と話しても、友達と遊ぶ時等は親の送迎が必要で少し不便と言われる。自分は町外で会社勤めだったが、池田は街と違う良さがあり、同級生が多くいたのが魅力で池田に戻った。子どもも夢を追い町外に出ても、池田の良い所を感じて戻って来て欲しい。集落関係は、役員だけでなく、集落の皆に伝わる仕組みができれば、もっとコミュニティも広がる。「ちょっといいですか？まちの話」を活用し、コミュニティが結束し、皆が幸せで関り合うようにしたい。

委員：町営住宅に以前住み、念願の池田で働く夢が叶い、住民の方と話をしながら仕事をしている。11頁の「大人が池田の良さを伝える、池田に住み続けていきたいと思ってもらう」につき、池田を好きで良さを知っている方々の姿に影響を受け、池田に帰ってくる話を間近で聞き、そんな方々に巡り逢えているが、自分も同じように暮らしていきたい。子どもとスポーツで関わる機会に、自分が池田を好きという気持ちを子どもたちにも感じて貰いたい。池田にマイナスイメージがあるが、年配の方等は本当に良い話が多くあり、今後池田の人の話をもっと聞きたい。

委員：木望の森プロジェクトの話で本当に希望が少しずつ見えてきた。林業の課題は多くあるが、森林の持つ公益的機能は計り知れないものがある。山に立っている木の価値以上に、切って林道まで出して市場まで運搬する経費がかかる現状があり、県や市町の助成を受けて何とかなっている。今後、森林整備については、防災の面からしっかりと山の整備を行い、池田での暮らしに安心安全の確保に努めて行きたい。業種のコラボ、異業種連携という言葉が非常に心に残っており、林業と観光、林業と農業といった連携事業を1つでも実現していきたい。

行政：自分は役場に入って40年経ったが、1番最初の仕事は大特免許を取り除雪車を運転する事だった。自分の家が農業をしていて、耕運機やトラクターを運転する事が多く、機械に乗るのは好きだ。今後携わりたい事の一つは除雪で、報告書案の6頁に不便さがあるが、道が良くない、除雪が良くないとは書いていない。今年も雪が降り、町外は非常に条件が悪かったようだが、町内は道路が綺麗な状態だった。もう一つは農業関係で、田圃で機械に乗る仕事や、野を駆け回り、山菜を採り、地味に仕事するおっちゃんになりたい。

行政：池田に生まれ、池田で働き、当たり前で暮らして来たが、改めて良い所と思う。区の仕事に参加し始めた時は集落の決まりや月1~2回の寄合が面倒で少し嫌だった。昔は皆で一緒に考え、行動したが、人数や高齢等の問題で、誰かに頼もう、

誰かにして貰おうとなった。役場に頼む傾向が多くあり、立場的にやり難い事もある。先輩方は共同作業を淡々とでき、技術もあり、若手を使うのも上手かった。地味に普通の事ができるとカッコ良く、そうなりたい。雪は池田の共通の課題なので、一人暮らしで除雪が大変な人が居れば、週末に除雪等手伝っていく。

行政：先日秋祭りがあり、今年はワクチン集団接種も終わり、天気も良かったので、多くの人がお参りに来るかと思った。実際は多くなかったので、集落の中に様々な問題があり、今まで見過ごしてきたものでも、もう先送りするのが難しくなってきた。言い出すのは、勇気が要り、難しいが、私も、今までの議論の成果を出したいと思うので、様々な集落の課題に対して、仲間を誘って、言い出して、一つ一つ課題の解決に近付けるように活動していきたい。

委員：集落に移り住んだ当初は、元々いた方々と考えが合わない部分がかかなりあったが、家族や自分事のように、さらに前向きに池田を考えるようになり、今は池田で土になる気だ。地方創生を調べ、他市町村で移住促進の取組みが非常に多く、人口増も必要と思うが、報告書の5頁のように、交通条件等での条件不利性は残っても、20年後に残したいのは、人口以上に、住んでいて良かった、これからも住みたいと思える池田の良い所だ。少子高齢化は容赦なく進む。これからも池田のお米を町内外に販売し、関係人口の取組みを一生懸命し、池田を伝えていきたい。

委員：平成3年頃に大野昭が限界集落を、平成25年頃に増田寛也が地方消滅を言い、平成26年成立の地方創生法を受けて、池田町は平成28年3月に第1期池田町地方創生総合戦略を策定した。目指すべき池田町の姿「豊国の農村」を実現するための構成要素を「すみか、しごと、なかま」とした。積極的な制度設計や補助制度を導入し、本会議で若干の改善が総括であったが、概ね肯定的な評価だった。

第2期総合戦略では、20年後に残したいものに挙げられた4点に加え、人口減少は池田の緊結の課題という認識だ。ある限度を超えると不可逆的な状況になるので、その前に意識しながら施策を考えなければならない。自治、連携、協働のもと、第2期総合戦略を日々の生活の中で、どのように活かし、実践するか、できることを考え、戦力が偏らない体制にしたい。戦略が十分に機能するか、地方自治と地方創生をどのように関連付けるかは今後の課題だ。

都会に昔出た時は一人一人の存在が軽いように感じたが、池田に戻り、皆自分の想いの中で、意欲を持って力一杯しており、一人一人の存在の大きさを実感している。今年は真剣に畑をしたが、腰は痛くなり、畑をしている人達は大変な達人だと実感した。精神的に余裕があると、池田の空の透明さやきれいな空気を実

感できた。

委員長：地方創生と地方自治は重要な課題だ。委員各人のコメントが重要で、想いや願いがあり、私も感銘を受けた。報告書案について、認識や目指している事が皆で共有できていると思う。委員の発言で、人口減少は当然、喫緊の課題である事に第2期においても間違いはないが、5頁の冒頭一行目の「人口減少の抑止を最大の課題として取り組んできましたが、私たちが共有したいものは、「人口」ではなく、」の記述はそのままとするか、今の指摘のように人口減少の問題もあるという記述にするか、どうか。

副町長：人口問題も大事という話だったので、委員の方々のご指摘の通り、人口問題もあるとした方が良い。

委員長：人口減少問題を忘れてはいないが、語弊がある印象を受けるので、例えば、「人口減少の抑止を最大の課題として取り組んできました。その課題も継続的に取り組む」と修正し、後の文章に繋げる等、人口問題もある旨で修正、追記を事務局に願います。その他、検討結果報告書（案）も総合戦略（案）も大筋問題ないようで、全体的に、池田町への想い、コミュニケーション、人と人との触れ合いや集いや交わり、更に、継いでいくという継承の重要性はかなり共通しており、しばらくはコロナと共存しながら、工夫してできる事をしっかりやっという事は伺えたかと思う。

報告書の提出

委員長リモート参加のため、副委員長が代理として町長に提出

町長挨拶

ご議論に感謝する。第1期は補助や施設整備など行ってきたが、今後は町民の方々の日々の暮らしにいかに関与していくことができるのか、分担・連携・協働を行いつつ、委員の皆様と共に一步一步進めていきたい。

委員長挨拶

閉会